

發揮躍動し居るの感あつて、斯界のため欣快に堪へない。なほ、淨瑠璃人形芝居と呼稱を一定したる如き或は人形出遣ひに制限を加へたるなど正に新體制と云ふべく、今後徒らに素義と接近せざらんことを望み、更に師の藝術に鎧草の絢爛を期待し、最後に心から其の健康長壽を禱る。

○

高 安 吸 江

古鞞氏の淨瑠璃は専ら合理的な心理描寫に最善の努力を拂はれ一字一句を忽せにせず終始一貫緊張そのものであるから聽手はいつもその強い力にグン／＼と引きつけられ一段がすむと非常に疲勞を覺えて苦しい事があります。

此間の鰻谷などそのせぬか陰慘味があまり強過ぎ不快をさへ感じた位でした。

それで一段の中にどこか呼吸をやすめる個所があつてスーとした快い氣持になることが出来たら、そこに寛嚴よろしきを得て初めて完璧なものが出来上ると思ひます。

○

太 宰 施 門

新態勢の文樂とその槽下古鞞師に望むべきことは非常に多

い。ゆるゆるとは別の機會に述べることにして、ここでは簡単に二つ三つ。

氣長く遠い將來を見て事のまとまるやう、枝が花をつけ實を結ぶやう努力していただきたい。現勢への不満は右翼側も左翼の陣も、ともに聲を一にしてゐるが、何うそれを聽いて解決するかは仲々の大仕事である。大夫も三味線も人形も、またその背後周囲の人も色いろの機關も、力を合せてなすべきこと、また勸説すべきことは目今のところ唯だ一つしか無いやうに思はれる。すなはち勉強することである。反省することである。さうして謙虛の心を忘れないで人に糺し、異論があれば十分述べて自分も妄を直し、また對手を啓蒙する。その手段を今の雑誌、「淨瑠璃雜誌」の上に見出すのも一つの良い方法であるやうに思はれる。

廣く言つてそれは研究を深めること、教育の振興である。

さうした方向に眞じめさが減つたとか、眞劍味が無くなつたとかいふ一部の批評を前に私は聞いた。それは三味線の誰がひどいとか、ある大夫の藝は何だとか、某人形の扱ひが無茶だとかといふ、個々のものに寄せられる糾弾より、何れくらゐ文樂にとつて不吉の前徴であるか分らない。それが全部嘘であるやうに、或ひはただ一部のことであるやうに私は希望する。

もとより現在の狀態を一段よい階位に進めるためには、何う考へても十年も二十年の月日が要りようである。初心の人